



日本医療機能評価機構認定病院

京都山城総合医療センター

Kyoto Yamashiro General Medical Center

発行元 公立山城病院
発行元責任者 中埜 幸治

昨年、我々は、当院が「京都府南部の公立拠点病院として住民の皆様により大きな安心できる生活を提供するため」には、「さらなる医療機能（優秀な医療スタッフの増員と医療機器の整備など）を充実しなければならぬ」と考えました。そのためには病院の意識改革を行う必要があるという主旨で改称することを病院全体で決定し、当院管理者団並びに組合議会で承認されました。その後新病院名称を公募し、10月7日の山城病院開設60周年記念式典で新病院名が発表されました。

平成25年4月30日午後4時、朝からの雨が上がり新緑が映えた当院玄関で、管理者河井規子木津川市長と構成町村長および病院組合議会議員、相楽医師会長、病院スタッフならびに地域住民参加のもと、「公立山城病院」の名称改称式典が厳かに行われました。式典で、河井管理者は「新しい名称のもと、医療サービス向上に努め、地域に親しまれる病院を目指していく」と力強い挨拶をされました。私もこのスピーチを拝聴しながら、初めて当院の職員として就任した15年前の古い山城病院の建物と現在の新病院や老健やましろの姿が交錯しました。病院管理者団および議員の方々から病院運営についてのご協力・ご助言をいただいたこと、また住民の皆様からの批判や賛同のご意見をいただいたことなど、病院スタッフと共に日々己と戦った出来事が走馬灯のように脳裏を駆け巡り、一瞬熱い思いがこみ上げてきました。同時に、当院がこの大きな新名称にふさわしい医療機能を充

病院名称改称と

「京都山城総合医療センター」 誕生式典に参加して

京都山城総合医療センター

院長 中埜 幸治



足していくためには、「地域住民との強い絆を保ち」ながら、日々「病院スタッフとスクラムを組み」努力していかねばならないという強い決意が湧いてきました。10年先には、日本中で「京都山城総合医療センター」の名称が轟いていることを期待しています。しかし、それには地域の皆様の方強いご支援が必要です。どうか今後ともご協力・ご支援の程お願い致します。

産婦人科紹介



当院は平成25年5月から京都山城総合医療センターとして再スタートしましたが、公立山城病院時代から一貫して産婦人科は地域の婦人科および周産期管理の中心としての役割を担ってきました。平成11年に新病院が新築されて以降、年間分娩数は旧病院時代からは倍増して500を下回ることはなく、多くの住民の分娩に関わってきました。当院では助産師を中心にできるだけ自然分娩を心がけ、無理なお産を避けるようにしています。帝王切開術の場合でも、できるだけ苦痛が少なく治りのいい手術を心がけています。分娩後の食事はちょっと贅沢な産後食で、可能な限りデイルームで褥婦さんみんなで食べていただいています。そのときのグループにもよりますが、わいわいがやがやとしたアットホームな雰囲気になることが多く、時には1時間後の回診の時間になっても部屋に戻られていないほど話が弾む時もあるようです。産褥期は以前から工夫を凝らしていて、アロマの香りとともに乳房マッサージ、ハンドマッサージ、足浴等を行っていますが大変好評です。

当院は母児同室ではありませんが、授乳室がにぎやかでたくさんの方の出会いが生まれ、経験豊富で心強い相談相手とも言える経産婦さんと仲良くなれたり、近い分娩時期の仲間が増えて友達作りに一役かっています。友達の輪は自然とふくらみ退院後から将来にわたって話し相手ができる、子育てネットワークへと発展する場合もあるようです。当院ではマタニティーブルーで悩む方が比較的少なく、その防止にも役立っているのではと考えております。

今後の妊婦健診での新しい取り組みとしては妊娠期間中の胎児心臓形態異常のスクリーニング（選別検査）を予定しています。現在府立医大病院との高速回線ネットワークを利用した胎児超音波遠隔診断システムの運用が始まっていますが、このネットワークに参加することでより強力な胎児管理が可能になります。各年代のさまざまな婦人科疾患の診療や手術も担当していますが、少子高齢化社会がますます本格化していく日本では病気になる前の健康管理がより重要と考えています。日常診療をしていていつも思うことは、癌も含めた病気で来院された時に「少し前に婦人科検診を受けておられたら良かったのに」ということです。予防していれば病気にならないか軽くすむのですから非常に残念に思います。今は電子カルテの時代で診療形態も様変わりし時間がかかることが多いですが、外来は前日までの電話予約が可能となり受診しやすくなったのではと考えています。安心料と思って産婦人科をまた受けて下さいねと患者さんによく言うのですが、心配されることがあれば是非積極的に受診してください。きっと受診して良かったと思ってもらえるでしょうから。

看護部新人研修

近年、医療技術の目覚ましい進歩や、医療安全の確保など、保健医療を取り巻く環境は大きく変化しています。その変化に対応するためには、看護職員の臨床実践能力の向上を図ることが必須であるといえます。その中で、特に新人看護職員における教育は、看護実践の基礎を形成するものとして極めて重要な意義を有します。

当院看護部は新人看護職員の教育体制として、日本看護協会ガイドラインに沿った新人看護師研修を実施しています。新人看護師研修は、集合研修と部署内教育を組み合わせて行い、看護職員として必要な姿勢及び態度、また卒業一年間に習得すべき知識・技術を身につけることを目標としてプログラムされています。

我々看護部教育委員は、集合研修を担当しています。集合研修では毎回学びの共有を目的として、振り返りの時間を設けています。その中で新人看護師たちが、現場で様々な悩み・不安など何らかの問題を抱えていることを知り、教育委員としてのようなサポートができるかということを考えています。一方で、入職後1か月、3か月、半年と経過していく中で、新人看護師たちが徐々に看護師として、社会人として成長している姿や、ひたむきに頑張っている姿に感動する事も少なくありません。新人看護師の教育は、大変責任の重い仕事です。しかし、その成長を見る事で、人を育てる喜びを感じられる大変やりがいのある仕事でもあります。

新人看護師は当院看護部のみならず、これからの看護・医療界にとって大切な宝です。このひとりひとりを、一人前の専門職業人へと育成するために、今後も新人看護師研修の充実を目指したいと考えます。

看護部教育委員会



オリエンテーリングに参加して



当院では、新入職者間の親睦とリフレッシュにより、仕事に対するモチベーションを高める目的で、毎年この時期にオリエンテーリングを実施しています。

今年度は、初夏の陽気ただよう4月26日、新人職員11名と教育担当者2名で奈良公園で行いました。まず、2グループに分かれてリーダー、タイムキーパーを決定しました。グループに提示されたのは「奈良公園にいる鹿の数は？」など奈良公園にまつわる問題です。比較的簡単なものから実際に足を運ばないと分からないものまで、様々な問題の答えを見つけてる為に、グループ一丸となって知恵を出し合いました。観光協会に行き資料を集めたり、寺院の受付の方に聞いたりしながら一つ一つ答えを見つけていきました。

リーダーがインシアティブをとりながら、みんなを引っ張っていく姿をとて頼もしく感じました。途中、晴天から一転、突然の雷雨に見舞われたり、手に持っていたパンフレットを鹿に食べられたりと、ちょっとしたハプニングもありましたが、充実した時間を共有することが出来ました。私自身も、新人職員から良い刺激をもらえ、貴重な体験をさせて頂いたと感じています。



マダニの脅威

子供達はもうすぐ夏休み！初夏の爽やかな風に誘われてアウトドアにお出掛けを計画されているご家庭も多いのではないかと思います。そこで注意して頂きたいのがマダニの媒介する感染症です。

既にテレビニュースなどでご存知の方も多いかと思いますが2011年に中国で初めて明らかになったマダニによる感染症が昨年日本でも確認されました。病名はSFTS（重症熱性血小板減少症候群）マダニが媒介するウイルスに感染して発病するものです。SFTSとは「重症で熱が出て、血小板が少なくなる病気」という意味の英語「Severe fever with thrombocytopenia syndrome」の頭文字をとったものです。

血小板は出血を止める大切な役割をしますが名前の通り、血液中の血小板が破壊され血が止まらなくなる病気です。マダニは日本に数種類いますが全てのマダニがこのウイルスを持っているわけではありません。マダニは家ダニとは違います。大きさも血を吸う前で1ミリ前



後から数ミリまで血を吸うと何倍にもなります。一度口器を差し込んだマダニは、吸血が終わるまで1-2週間も体から離れません。マダニが人に吸い付く時に麻酔剤様の物質を出すため痛みはないようです。

予防は、マダニに刺されないようにする事です。山野や草むらに出る時は、長袖長ズボン着用、山では草に直接座らない、虫除けスプレーを使う、帰宅後すぐ着替え入浴してマダニを洗い落とすのも効果的です。畑の畔道や背の高い草のある公園など犬の散歩も要注意です。すでに吸血状態のマダニを発見したら、無理に引き抜こうとすると体液が逆流する、体内にマダニの頭が残るなど細菌感染する恐れがあります。マダニを発見したら出来るだけ早く皮膚科を受診しましょう。感染した時の症状は、かゆみのない発疹や発熱などです。治療は点滴と抗生物質の投与。咬傷が見当たらなくても、医師にキャンプやハイキングなどに行った事を伝えて頂ければ、診断しやすくなります。

感染管理認定看護師 藤井 美奈子

看護の日フェスタを通して

毎年5/12は看護の日。ナイチンゲール生誕の日です。それにちなんで、5/10、看護の日フェスタが当病院で開催されました。このイベントでは、身長や体重測定をはじめ、普段あまり測定する機会のない骨密度や血管年齢などを測定しました。この日はあいにくの曇り空でしたが、120名もの方にご参加いただきました。参加された方から「病院の健康診断では調べてもらえない事を測定してもらえると嬉しい」「このようなイベントをもっと頻回にしてほしい」というご意見を頂くことができました。今回のイベントをきっかけに、地域住民の皆様がご自身の健康に対してもっと関心を深めていただければ幸いです。今後も職員と地域住民の皆様との親睦を深め、少しでも健康づくりのお手伝いできればと思います。

藤田 蘭



7階病棟紹介

7階病棟は循環器、消化器を中心とした内科病棟です。当病棟スタッフは看護師、看護助手、病棟クラークの計33人で構成されています。病床数は57床あり、循環器内科では心臓カテーテル検査やペースメーカー留置などの対応をしています。消化器内科も日々進歩しており、内視鏡的治療、肝細胞検査、肝腫瘍焼灼や消化管ポリープ切除など多くの検査・処置があります。当病棟スタッフには、検査や処置に対する知識はもとより、急変の危険性が高い病態についても高い知識が求められます。

今年4月に新人看護師3人を迎え、若いスタッフが増えたことでより明るく活気づいてきました。スタッフ一丸となって新人教育に当たり、また新人からも刺激を受けながら各自が自己研鑽に励んでいます。心電図などの勉強会を積極的に行いながら、科学的根拠に基づいた質の高い看護の提供を目指しています。

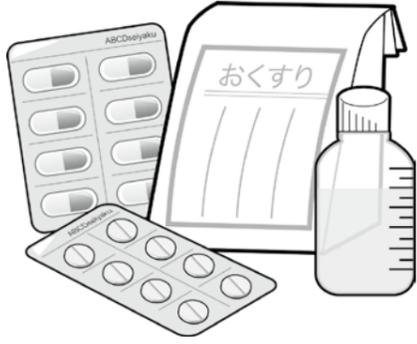


お薬きちんと飲めていますか？

当院では、より安全な医療を提供するために、入院患者さんに対して薬剤師による持参薬の受け取りを始めました。

持参薬とは、入院時に持ち込まれる普段使用されている薬のことで、飲み薬、目薬、貼り薬、吸入薬、注射薬、健康食品など全てを含みます。

持参薬には他施設の薬も多く、健康食品などを常用されている方もあり、重複服用や飲み合わせなどのチェックが不可欠です。薬剤師が、患者さん又はご家族の方とベッドサイドで『何をどのように服用又は使用されているのか』を確認することは、その後の薬物療



法を行う上で重要となってきます。日頃、薬に関してお困りのことなどがありましたら、薬剤師との面談の際にお知らせください。

得られた情報は、持参薬と同成分の薬が当院に有るか否か、なければ代替薬の情報もあわせて医師や看護師へ提供し、治療が円滑に進むように努めています。医師が持参薬の継続指示をした場合は、入院後に処方された薬との重複等を確認しながら、服薬管理を行っています。また、検査や手術の時には、中止しなければならぬ薬があるので、それらが確実に中止され、安全に検査・手術が行えるようにしております。

「薬を持って来てくださいね」と、声がかかった時や入院される際には、現在使用されている薬と薬袋の他、お薬手帳やお薬説明書をご持参ください。また、医療を安全に受けていただくために、薬に対するアレルギーをお持ちの方は必ず申し出て下さいますよう、よろしくお願い致します。

薬剤部 野口 善久

靴のはなし

今回は靴選びのポイントと靴の履き方について説明していきたいと思えます。「合った靴を履く」ということは誰もがすぐ出来る簡単な健康法です。

靴選びのポイント

① 踵
踵は足の土台です。ですから、踵が「パカパカ」脱げてしまう靴は、もともと不安定な靴であり、極力避けましょう。靴の踵は硬くしっかりしたものにしみましょう。



② 甲まわり

靴が甲まわりをしつかり押さえにくれると足との一体感が非常に増します。この部分は、なるべく隙間がなくピッタリした靴を選びましょう。甲に合わせて調節できるヒモやベルト付きにしましょう。特にヒモはベストです。

③ 長さ

靴の長さはメーカーによつてバラバラです。ピッタリの靴を選ぶように、靴の中敷を取り出してご自身の足を乗せてみるのも大



切です。その時つま先と中敷の長さは1cm以内にしましょう。それ以上のゆとりは良くありません。

靴の履き方

① つま先をトントンしてはダメです。踵をトントンと軽く地面に打ち付け靴の踵と足の踵をピッタリ合わせる。
② つま先を上げてきゅつとヒモを締め



ヒモを締める位置は②〜④番目

① 指が使える、スムーズに蹴り出せる
② 足と靴のフィット感が良くなる
③ 必ず歩きやすくなる



→靴と足の曲がり一致

靴が履きにくいからとヒモを緩めたまま履いていませんか。足が靴の中で動いて不安定な状態になっていませんか。足に問題を持っている方は特に注意して靴を履いて下さい

リハビリテーション科

理学療法士・フットケアトレーナー

岡村 孝文

住民医療フォーラムが 開催されました

平成25年5月30日午後3時より、当院会議室において第11回住民医療フォーラムが開催されました。

今回のメインテーマは「看取りの場を考える」で、中井一郎副院長の司会のもと、第一部「基調講演」、第二部「パネリスト発言」、第三部「パネルディスカッション」というプログラムに沿って会が進行されました。以下、簡単にその内容を紹介します。

中井幸治院長による基調講演「看取りの場を考える…医療と介護・福祉のかけ橋〜いいいき方・いい死に方をするために」では、最近のニュースから、糖尿病、高血圧、狭心症、不整脈という持病を持ちながら、世界最高齢でエベレスト登頂を果たした三浦雄一郎さん、肺癌未告知のまま93歳で自宅で亡くなられた狂言師の茂山千作さんの例が紹介された後、自分の希望する看取り方をしたいのならリビングウィル（エンディングノート）の作成が役立つ事、最近の日本人の看取り場所として自宅や介護施設が増えてきている事などが紹介され、今後も本人や家族の希望を尊重しながら、社会全体で看取りの場所を考えていく必要があると示されました。

第二部では、まず、パネラーである相楽医師会副会長・相楽在宅医療委員会委員長の小澤勝先生、緩和ケア訪問看護ステーション「架け橋」所長の濱戸真都里さん、加茂介護保険相談センター管理者の平島淳司さん、介護老人保健施設「やましろ」管理部係長の中村真史さん、当院地域医療連携室主任の南出弦から、実際の症例を交えながら、それぞれの立場からの看取りについて、現状や問題点などが報告されました。

第三部のパネルディスカッションでは、参加者のアンケートを元に、ホスピスと病院での緩和治療の違い、それぞれの施設で



可能なケアや限界、認知症へ対応などが、実際の症例を交えながら、議論されました。最後に、コメンテーターの介護老人保健施設「やましろ」施設長の赤坂裕三先生から、死に方は選べないが、生き方は選べるので、何事にも感謝して生きることが大切であるとの話で会が締めくくられました。

当日は、雨が降るあいにくの天候だったにもかかわらず、用意した座席が足りないほどの盛況で、看取りに対する関心の深さがうかがわれました。パネラーの皆様、会場に足を運んでいただいた住民の皆様、本当にありがとうございました。

女性医師による乳腺外来新設しました

毎週
木曜日

どうぞお気軽なく受診して下さい

(担当：大橋まひろ)



介護老人保健施設『やましろ』だより

老健施設に入所したら、どのくらいの入所料金がかかると思いますか？
老健施設は、介護保険が適用される施設の為、ご本人負担は介護サービス費の1割となります。その他食費、居住費など日常生活にかかる費用は自己負担となります。

今回は、ご本人さまが実際に負担する入所料金（1か月分）について説明したいと思います。

本人課税世帯の場合の例

例1：A子さん(女性) 90歳 要介護3 ◎4人部屋入所	
介護保険一部負担金	¥30,000
居 住 費	¥10,000
食 費	¥43,000
お や つ 代	¥ 4,500
そ の 他 雑 費	¥10,000
合 計	¥97,500

※おむつ、薬などの料金も全て介護保険一部負担金に含まれています。

例1：B男さん(男性) 86歳 要介護3 ◎個室入所(木津川市在住)	
介護保険一部負担金	¥27,000
居 住 費	¥50,000
食 費	¥43,000
お や つ 代	¥ 4,500
そ の 他 雑 費	¥10,000
個 室 使 用 料	¥49,000
合 計	¥183,500

※おむつ、薬などの料金も全て介護保険一部負担金に含まれています。

少し高いかな？と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、ご利用者さまの所得によって、食費と居住費が安くなる制度があります。非課税世帯等で減額対象の方は、4人部屋で6万円〜8万円、個室でも11万円〜15万円です。

詳しくは、老健施設窓口または市町村の窓口までお問い合わせ下さい。

介護老人保健施設やましろ

TEL (0774) 730359



平成25年4月 入所者のみなさまとお花見に出かけました。満開の桜の下で気分も晴れられました。